



《オレンジ色にライトアップされた庁舎》

鉢盛おろし

認知症を知り、
 ともに暮らす地域を目指して

毎年9月は「世界アルツハイマー月間」で、9月21日は「世界アルツハイマーデー」です。認知症への理解を深め、本人と家族に援助と希望をもたらすことを目的に世界各地で啓発活動が行われています。認知症になっても、住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けることができます。そのためには地域の皆さん一人ひとりの理解と協力が欠かせません。

朝日村でも9月22日(月)役場村民ホールに認知症の普及啓発に関する展示物が展示され、庁舎がオレンジ色にライトアップされていました。多くの住民やファミリーマートのお客さんらが温かく・柔らかな光に包まれた庁舎を見上げていました。今年で7年目となる啓発活動は、「認知症について」少しでも多くの方に関心を持っていただき、互いに支え合う地域づくりのきっかけになればと願いが込められています。オレンジ色は「認知症の方とその家族を温かく見守る」ことを表すカラーで、世界各地で認知症支援のシンボルとして使用されています。

村では、「認知症 支えて 見守る 村づくり」をスローガンに、認知症バリアフリーを目指し、認知症について正しく知り、支え合いができる地域づくりを進めています。この先、誰が認知症になるかわかりません。「認知症になっちゃったけど、よろしくお願いね」と自然に言えるような関係性を築いていきたい。「差別することなく誰にでもやさしく接することができる」「子どもから大人まで全村民が支え合い安心できる」人と人がつながる橋渡しになればと思っています。「支えたり、支えられたりすることが自然になる」「身近な人とつながる」「オレンジランチで同じ席に座った方とおしゃべりしてみる」「認知症でもそうでなくてもみんな同じ人」そんな地域にしたいと願っています。

みんなで一つに繋がればとても良いですね。
 (H・K)



2025 朝日村文化祭開催

11月1〜2日、前夜の雨も上がり、とても爽やかな秋空のもと、中央公民館にて「朝日村文化祭」が催されました。文化祭・JAまつり・日の出市の3つが同日開催され、周辺はとても華やかな賑わいでした。

公民館ステージにて、勇壮な朝日太鼓の呼び込みを皮切りに、様々な催し物が始まります。広場には色々な村産の美味しい物の出店や農協による縁起ものの餅投げも行なわれ、今年の文化祭のスタートです。館内では各サークルによる様々な展示が施され、メンバーの方々が集まっています。保育園・小学校やわくわく館の子ども達の絵画や作品は微笑ましく、サークルmomomoのコーナーでは手作りアクセサリーや小物等がテابلーパーに並んでいました。防災展には各種防災品の展示があり、村防災士の面々が意識向上の啓発活動に勤しんでおられました。朝日ヘルスメイトの皆さんから「減塩みそ汁」を頂戴しました。夏の間は塩分は必要ですがそれをそのまま冬に持ち込ん

ではいけないんだそうです。これにはちょっと自戒の念を持ちましたね。図書館・マルチメディアセンター内では、子ども達たち向けのワークシヨップが人気で大勢の子ども達たちがクラフトを楽しんでいましたね。また、昭和100年朝日村出来事史の提示もあり、なんと公民館報の発刊は昭和26年なんだそうです、歴史を重ねてたんですね。中古本のプレゼントコーナーで筆者も2冊ほど手にしました。

2日目のステージ発表は楽しく見させて貰いました。

小学校金管バンドは見るたびに上手になっていて、腕を上げたなど感じましたよ。コーラスひまわりの「山は大きく」。美しい旋律と詩に込められているのは朝日村民の願いそのものなのでしょう。三味線・民謡のコーラスステージでは、その音色と歌声に聴き惚れました。ちょっと可笑しかったのは「炭坑節」。確かに客席にはまああるいとお月様のようなものがポコポコと並んで。フィナーレはやっぱ朝日鉢盛太鼓ですね。勇壮かつ繊細、迫力と哀愁、それら全部を聴き取る事が出来ました。

文化とはいったい何ぞや……、ちよつと考えてみました。歌うこと、踊ること、奏でること、絵を描く事、何かを創る事、美味しいものを食べる



朝日ヘルスメイトブース



防災展

事、此等の全てが人が人らしく、より心豊かに生きていくために、とても大切な持ち物なのでしょう。そして、それを共感出来る人が増えれば増える程、素晴らしい時間と空間が生まれていく。文化ってとても大事なものですよね。



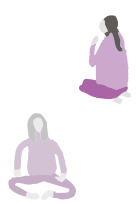
三味線



朝日鉢盛太鼓



コーラスひまわり



文化講演会

11月1日(土)・2日(日)の2日間、令和7年度朝日村文化祭が開催されました。

その初日に行われた文化講演会、今年は文化祭のテーマである「朝日村の昭和100年を振り返って」にちなんだ内容となりました。

それは、今や伝説となつていく平成5年の信州博覧会で上演されたミュージカル「朝日村ファンタジー」の制作過程を追ったドキュメンタリー番組「いつもムラには歌がある」(SBC制作)の上映と、ミュージカルに携わった方々によるトークショーというものでした。

このミュージカルは今年亡くなられた村出身の偉大な文化人、上條恒彦氏(歌手・俳優)の提案によるものということで、まさに今年の文化祭にふさわしいイベントとなりました。

まずは上映会。初めは「興味本位」「なんか面白そうだから」といった様子で集まった、ミュージカルには縁もゆかりもない老若男女の村民達。そんな全くの素人集団がプロの方達による指導・協力

を経ながら、縄文の時代から現代までの朝日村を描く壮大なミュージカルを作り上げていくという内容でした。

大道具、衣装、演技、歌唱など全て一から作り上げていく過程で、村民達の表情が次第に真剣に、けれども実に楽しそうなものへと変化していく様子がとても印象的でした。

そして上演当日、580人もの出演者の想いがひとつとなったその舞台は、上手い下手を超越したまさに朝陽のようなエネルギーに満ちていて、当時のことなど全く知らないわたしも大いに感動しました。

上映後には当時の制作に携わった菱山晋一氏(当時SBCディレクター)、原有人氏(当時舞台監督)、そして、上條恒彦氏のご子息でもある、上條恒氏(当時舞台監督助手兼演出助手)、さらに、当時小学生でミュージカルに参加された、北村直樹さん、山崎佳典さんが登壇してのトークショーが行われて、披露された舞台裏のこぼれ話や苦労話などに大いに盛り上がりました。

また、北村さんからは「今の自然豊かな朝日村を守りながら、自分の夢のため、世界を拓くために村を出て行った若者達が故郷を忘れず、またいつか戻ってくるような魅力ある村づくりを」という話があったり、山崎さんからは「当時とは違う今の朝日村、例えば移住者が増えたりという中で、あらためて村民達が交流する場、機会があれば」という話がありました。

お二方の話を聞きながら、ミュージカル内で何度か繰り返された「山は大きく」が、今も小学校の音楽会などで歌われていたり、お夏まつりであったり(そこで披露される朝日小唄や銭太鼓等)と、「継承され

ている文化を大切にしていかなければ」と想いを新たにすると共に、またいつか、今の村民達による大きなうねりが起きて、そこに新しい文化を芽生えさせることもまた、今を生きる私たちの大事な役割なのではないかと感じました。



トークショー



上映の様子



サラダの里通信

あさひ保育園 運動会

10月3日(木)、あさひ保育園園庭において、保育園の運動会が開催されました。天候にも恵まれて、保育園の園庭は、我が子の活躍を一目見ようとする保護者やご家族で、あつという間にいっぱいになりました。

種目の内容は、先生と園児が意見を出し合いながら決定し、年少クラスの「おぼけをつかまろ!」「かけっこ」、年中クラスの「バターパワフワふくらめバレー」「リズム」、年長クラスの「園長と対決 綱引きバトル」「綱引き」といったユニークな名前が付けられた種目が10種類行われました。

そのうち、綱引きは3回戦行われました。1回戦目は、上條園長扮する「黒忍者」1人対年長クラスの園児全員で綱引きが行われ、年長クラスが圧勝しました。2回戦目は、黒忍者(上條園長)が年長クラスのお父さんたちを黒忍者チームの助っ人として招集し、黒忍者チームが圧勝。続く、3回戦目は、年長クラスの園児がお母さんたちを年長クラスの助っ人として招集して、緊迫した勝負が行われ、年長クラスの勝利で幕を閉じました。

そのほかにも保護者が参加する種目が数多く行われ、全員参加型の運動会となりました。最後に、保護者会から園児たち一人ひとりに金メダルが贈呈され、園児たちはとても満足そうな顔をしていました。保護者の方にとっては、子ども達の成長が見られる良い機会となったのではないのでしょうか。



きれいに膨らんだよ

第75回朝日村体育祭スポーツ・フェスティバル

10月13日(月)第75回朝日村体育祭スポーツ・フェスティバルが行われました。

こちらは自由参加のスポーツ体験イベントでこの形式になって今年で4回目を迎えました。

公民館玄関で受付を済ませるとスポーツドリンクとスタンブカードを受け取り体験をしたブースに向かいます。

屋内はトレーニングセンター・アリーナでのバトミントン、ソフトバレー、ふわつとテニス、なわとび。研修室では体力測定。野外ではグラウンドを中心に野球体験の4種目にテニスコートでのソフトテニス、キックターゲットやサッカーボーリング。縄文むら公園でのスラックライン。ゲートボール場のモルックと多種目をそれぞれの関係者の皆さんが案内や指導者として盛り上げていました。

開始時間には小雨が降るあいにくの天気ですが、屋内での種目が中心でしたが、次第に雨も上がり、野外にも人が出始め各ブースが動き始めました。

訪れたガンス君も参加して会場を盛り上げて約120名の方がいろいろなスポーツを体験して体を動かす心地よい汗を流していました。

体験をした体力測定は今自分が何歳の体力なのか掲示してある表を見て確認出来ました。

帰りにはスタンブをもらったカードを提示して参加賞のスポーツタオルを受け取り満足そうにしていました。



アリーナの様子

朝日小学校音楽会

10月24日(金)朝日小学校で音楽会が開かれました。

全校でオープニング曲を歌った後、4年生が琴の合奏「さくらさくら」を披露。続いて、初めての音楽会となった1年生。始まる前はドキドキした表情も、ステージに上がると堂々とした表情に変わり、手拍子やかわいらしい振り付けを入れた斉唱に、会場からあたたかい拍手が贈られました。3年生は全学年の中で最も人数の多い36名の演奏。ゆったり息のあった音色に団結力を感じました。前半最後は5年生。高学年になると使用する楽器の種類も増え、演奏の難易度が上がります。しかしそこは、これまでの経験による自信で表現の幅が広がった合奏、合唱となりました。

後半は朝日小金管バンドが登場。圧巻の迫力あるサウンドで会場中を魅了しました。2年生はとにかく元気いっぱいな姿が印象的でした。そして、小学校最後の音楽会となる6年生。人気音楽グループの楽曲をメドレーで合奏し、歌詞の意味を考えて練習を重ねてきた合唱曲「HEIWAの鐘」は鑑賞した保護者や関係者の心に強く響き、最後の音楽会にふさわしいステージとなりました。フィナーレは「山は大きく」を全校手話コーラスで締めくくりました。同曲は今年ご逝去された上條恒彦さんが作詞をされています。これからも上條さんが残してくれた言葉を大切に、この音楽会で歌い続けてもらいたいものです。児童の皆さん、今年も新たな感動と発見をありがとうございました。



全校手話コーラス「山は大きく」



シリーズ発見！朝日人⑥

徳原 聡さん

チャレンジ精神が人生を動かす！

福祉・教育のスペシャリスト



徳原 聡さん（53歳）は、長野県塩尻市広丘のご出身です。高校卒業後、埼玉県にある

体育の専門学校で専門知識を身につけ、東京の私立幼稚園に体育講師を派遣する会社に就職し、千葉支部で約15年間、未来を担う子ども達の成長に携わりました。

36歳で朝日村へＩターンを決行。ここから、彼のフットワークと熱意が地域社会に深く根付いていきます。Ｉターン直後は「森のこびと」でアルパイトをしながら、自営で出張体操教室を開講。塩尻市、松本市、山形村、木曾など広範囲を車で巡り、マットなどの用具を積み込んで、多く方に運動の楽しさを伝えました。

その後、朝日村の嘱託職員として、あおぞら・おひさま保育園で体育指導を担当。午後は「わくわく館」の児童指

導員を務めるなど、村の子育て環境の充実にご尽力されました。45歳で「森のこびと」を運営する特定非営利活動法人レスパイトケアはちもりの正規職員となり、さらなるキャリアアップを目指し、49歳で介護福祉士、50歳で保育士資格を取得。常に学び続ける姿勢は、地域福祉と教育の質を高めています。現在、菅野事業所でご活躍中ですが、来年朝日村に新施設が完成するのに伴い、再び朝日村での活動に戻られます。

私生活では、ゴルフと、人生を大きく動かししたスキーが趣味です。約15年前、「子どもの扱いが上手な方」という募集を見て、あさひプライムスキー場のインストラクターに全くの未経験ながら応募。これが転機となり、スキーに熱中し「あさひプライムの近くに住もう！」と決意し、村内に家を購入するほどのめり込みました。

その持ち前のチャレンジ精神と実行力で、朝日村の教育と福祉の現場を支える徳原さんの、今後の多岐にわたる活躍にどうぞご期待ください！

大会結果

第1回あさひモルッククラブ大会

今年設立したあさひモルッククラブによる大会です。スポーツの日に合わせ、19人が参加しました。大人から子どもまで、白熱した大会となりました。

●優勝…でこぼこチーム

（小林礼人・清沢好浩・近藤志津恵）

●準優勝…ひばりやチーム

（青柳勇樹・清澤博輝）

●第3位…ゴリラチーム
（齊藤潤嘉・高橋大地）

第27回朝日村民ゴルフ大会

毎年恒例のゴルフ大会となります。今年は53名が参加しました。天候が心配されましたが雨に遭うこともなく無事に大会は終了しました。

●優勝………齊藤 智之

●ベストグロス…白木 育明

●女性ベストグロス…齊藤くみ子



優勝カップ授与



モルック大会の様子

熊久保だより

「朝日美術館・民俗資料館発行」

令和7年度報告

4月1日から全館休館となりました

朝日美術館は開館してから今年で二十四年、歴史民俗資料館に於いては三十四年となりました。この度、全館照明のLED化、受電設備の更新、美術館展示室の壁張替やカーペット入替、火災報知器更新などの改修工事を行っています。

工事に伴い3月から資料整理作業を行いました。三十年以上の歴史ある当館は、資料や物が増えているのが現状です。資料に関しては、まず何がどれほど収蔵されているのか、確認することが重要作業となりました。開館当初の予想以上に多くの資料を収蔵して参りましたが、この機会に保管環境等を考慮し、活用すべき民具資料をより良い状態で保存し、調査を行うことを

目的に、重複しているものや著しく劣化損傷しているものはデータ保存という選択を行いました。



民具を一つ一つ記録していきます

処分については村内放送等で周知を行い、5月美術館にて資料の公開見学を行いました。この間、民具資料を活用してくださる村民の方優先に、引き取り希望に応じました。多くの民具が活用されるために引き取られました。今後は、引き続き収蔵される資料の調査を行い、展示公開し、みなさまに学んでいただけるよう活用の場を考えて参ります。



土器が移動され何も乗っていない展示台

工事は足場を組むため、工事作業の邪魔とならぬよう、また破損しないためにも、縄文土器や大型民具などすべての常設展示資料を移動しました。



公開見学の会場の様子

高い天井の照明器具交換のため、館内に何重にも足場が組み立てられました。その高さを見て、改めて当館の展示空間の設計が彫刻作品を観せるための工夫と計算がなされたことが実感できました。

大掛かりな高圧受変電設備の入替工事や照明工事の終了を受け、再開館に向け本格的に展示準備を開始しました。

これまで以上に、朝日村の考古資料（縄文土器や石器など）、民俗資料（昔の生活や産業の道具など）をわかりやすく、楽しくご覧いただけるよう、展示を工夫してまいります。

今後の美術館・資料館のスケジュール

改修工事終了後の再開館は来年4月を予定しています。日程が決まり次第第H P等でお知らせいたします。

常設展示も工夫がまったリニューアルを目指します

考古展示室では、朝日村を代表とする「熊久保遺跡」の土器や石器などを中心に、土器の文様「唐草文の魅力」や、縄文人たちの生活には欠かせなかった「石器」、折りの要素が含まれていたであろう「土偶」、朝日村以外の広い地域と



の「交流」が見てとれる土器や石器をテーマごとに、解説を含めご覧いただけるよう準備を進めています。

民俗展示室では、朝日村の生活と産業をテーマに沿ってわかりやすく学ぶ空間とします。朝日村で使われた多くの道具を、実際に使用する場面として見てもらえるような「朝日村ならではの」展示を目指して、当館の資料を活かしてまいります。



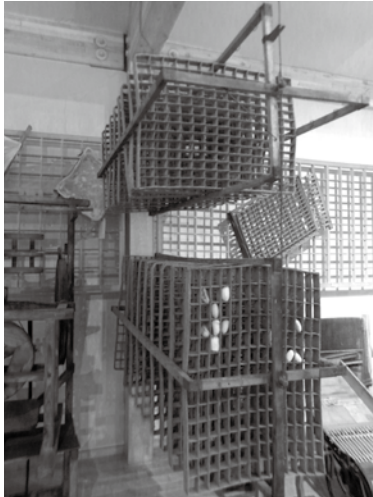
扉の向こうはどうなっているの？

朝日村で使われた民具の話、お聞かせください

民俗資料展示室のリニューアルに合わせ、農機具や養蚕の道具、生活用品などについて実際に使われていた方からの情報を集めています。どんな風に使っていたのか、使っていた当時の思い出などをお聞かせください。生業としての専門的な話はもちろん、資料や道具にまつわる伝統的な風習や行事などの話もお聞かせください。

朝日村のくらしを興味深く、楽しく観ていただくために、ぜひ村民のみなさまからの「情報」を参考にさせていただきます。

どのような機会でも話を伺うかは、改めてご案内します。



小さなところも手作りりで再現！

歴史民俗資料の館お宝拝見 14

手作りスキー解説書

この度、当館に収蔵されている様々な民俗資料と向き合う機会となりました。数多くの興味深い、そして村にまつわる資料の中で、大変貴重なものを紹介します。

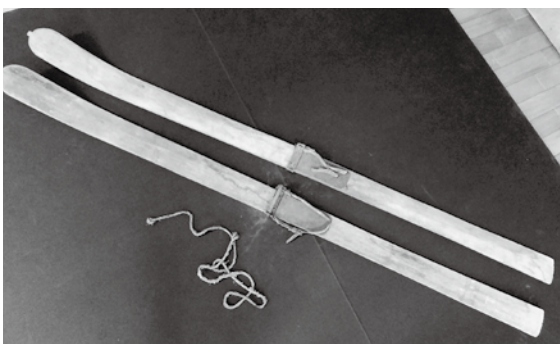
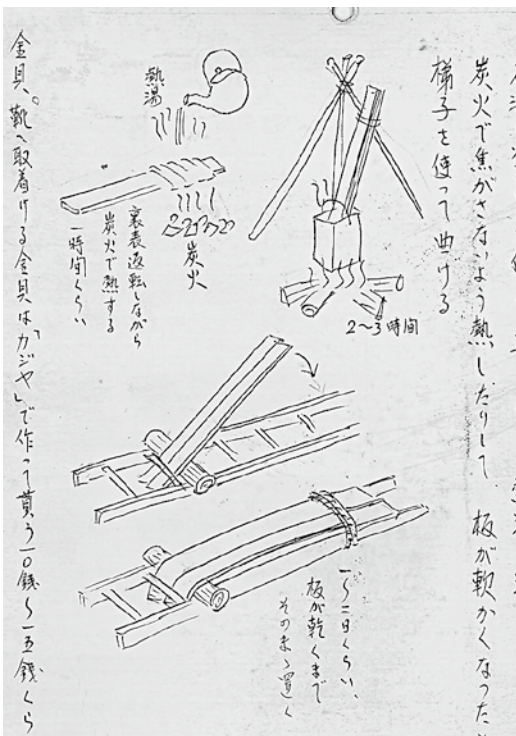
昭和初期に多く作られたという「手作りスキー板」。作り方やポイント手順を解説する手書きの図入り「解説書」です。この解説書があることが、スキー板の資料としての価値を際立たせています。

解説書によれば、手作りス

キーが村内で作られたのは昭和10年頃。手作りが一般的で、自分で作るか、村内の大工や建具職人に依頼しました。製作料は当時の大工日当の半分と言われたそうです。板材には「ヤマザクラ」が適しており、村内の製作所には「スキー材」が一組40〜50銭で販売されていました。製作するに当たり最も苦労したのが前部のカーブであり、図解説付きで分かりやすく示してあります。

スキー板が手作りされていた昭和10年頃、村にはスキーの出来る場所があったのでしうか。「朝日プライムスキー場」は平成3年にオープン。それまでは近くの山で滑っていたのかと思っていれば、この頃は娯楽ではなく、生活必需品だったとの話を伺いました。朝日村は里山で傾斜も多く、冬場雪の多い場所での移動手段としてスキーを活用していたのです。山仕事（炭焼きなど）も盛んであったため冬場も山へ入ることがありました。「かんじき」も利用しましたが、下りはスキーが便利でした。

やがて生活が豊かになり、スキーは冬の楽しみとなってきました。



手作りスキー板

窓口情報

※了承を得て掲載しています。

おくやみ

地区名	氏名	年齢	世帯主
下古見	上條恵美子	90	上條 典泰
針尾	清水佐代子	97	清水かおる
新田上	上條 倍子	67	本 人
新田下	清沢 和人	89	本 人
三ヶ組	塩原いよ子	65	塩原 一夫
中 組	三村源太郎	92	本 人

お台所エッセイを 書いてお願いしてみたい 「季節のはざままで」

夏の名残がいつまでも居座って、秋の顔がなかなか見えませんでした。朝は半袖では寒く、昼は長袖では暑い。洗濯物の山を前に「今日はどっちの季節？」と天気予報よりも勘が頼りの日々です。ようやく涼しくなったかと思えば、今度は急に冬のような風。衣替えをしたそばから、引き出しをまたひっくり返しています。季節の変わり目は、服だけでなく気持ちの切り替えにも時間がかかりますね。そんなときは、温かいお茶をいれて深呼吸。

「まあ、そのうち落ち着くでしょう」とつぶやきながら、今日もタンスと相談しています。実はこの文章チャットGPTに書いてもらいました。先日スマホの講習会でチャットGPTを扱って、挨拶文なども書いてもらえると聞いていたので、「朝日村公民館報の記事、お台所エッセイを書いて。」と頼んでみました。チャットGPTなのでチャットのように会話形式で進んでいきます。「たとえば、「秋の台所」寒くなってきたので煮込み料理」「旬の野菜を使った料理」など、テーマを一言いただければ、すぐにエッセイを書きます。」と

返事が来たので「タイトルはお台所エッセイですが、台所に関係することではなく、自分の書きたいことなんでも書いていいようです。文字数は300文字ぐらいでお願いします。」と返したところ「なるほど、「お台所エッセイ」というタイトルでも内容は自由なですね。了解しました。では、朝日村公民館報にふさわしく、親しみやすく少しユーモラスな300字程度の文章をお書きしますね。」

それで最初の文章が出来上がりました。今回はそのまま載せていますが自分でちょっと手を加えたり、アイデアだけ使ったりしてもいいかもしれません。パソコンからもスマホからも使えるのでちよつと使ってみませんか。

お台所 エッセイ

Y・O

170



みんなのアトリエ



朝日小学校6年1組
かくら けいし
加藏 啓志 さん
「古い寺です」

色をなるべく写真によるように、がんばりました。



朝日小学校6年1組
あわづはら ひなた
栗津原 陽大 さん
「古川寺の鐘」

できるだけ木の色に近づけるようにしました。